

子ども一時預かり

県立大に
開設 避難所から送迎バスも



ボランティアとボードゲームで遊ぶ子ども

西日本豪雨で被災した子育て家庭を対象に、県は18日、県立大(総社市窪木)内にあ

る「チュッピーひろば」で、一時的に子どもを預かる取り組みを始めた。被災地はがれきなどが散乱し子どもがけが

をする恐れがあることから、家屋を片付ける際の預け場所がほしいという被災者の要望を受けて開設した。初日は倉敷市真備町地区などの2歳から小学6年生までの23人が利用。保育士やNPO法人のメンバーら

ボランティア約20人が見守る中、子どもらは虫を捕ったり、ボードゲームで遊んだりした。次女(5)を預けに訪れた同市真備町有井の女性(40)は「自宅の片付けのめどがまだ立っていないので、本当に助かる」と話してい

た。
0歳〜小学校低学年(同高学年は要相談)が対象。被災者もしくは親族が被災した人が無料で利用できる。真備町地区の3カ所の避難所からは同大への送迎バスがある。
8月末までの予定で、7月は無休、8月は日曜休み。時間は午前9時半〜午後4時。利用当日の3日前までに県子ども未来課(086-2226-7348)に申し込む。(鈴木麻美)